

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度第2回茨木市健康医療推進分科会
開催日時	令和8年2月18日（水曜日）午後2時～午後3時
開催場所	茨木市保健医療センター3階大会議室
議長	肥塚会長
出席者	福島委員、宮本委員、篠永委員、金村委員、 加藤委員、佐藤委員、川島委員
欠席者	小西委員、黒根委員、北川委員、村山委員、木下委員
事務局職員	村上健康医療部長、浦健康医療部副理事、 奥野健康づくり課長、 永友健康づくり課参事兼健康増進係長、 三河健康づくり課課長代理兼健康企画係長、 飯盛健康づくり課主幹兼保健衛生係長、 三木福祉総合相談課兼健康づくり課保健師長、 三田健康づくり課主査
議題(案件)	1. アンケート調査の進捗状況について 2. 計画中間見直しに向けたスケジュールについて 3. 令和7年度健康づくりに係る主な取組について
資料	次第 資料1-1「茨木市保健福祉に関するアンケート調査実施概要」 資料1-2、資料1-3「健康いばらき21・食育推進計画等中間見直しに係るアンケート調査単純集計結果」 資料2「茨木市総合保健福祉計画（第3次）中間見直し年における審議会・分科会等のスケジュール案について」 資料3「令和7年度健康づくりに係る主な取組」 資料3参考資料 各事業チラシ等  当日配布資料 ・令和7年度第2回健康医療推進分科会 事前ご意見・ご提案への回答

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局（瀧本）	<p>皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第2回茨木市健康医療推進分科会を開催させていただきます。</p> <p>開会に先立ちまして、委員の変更がございましたのでご紹介をさせていただきます。</p> <p>まず、歯科医師会から選出の芝委員から黒根委員に。自殺対策ネットワーク連絡会の委員改選に伴い、当該連絡会から選出の渡邊委員から北川委員へ変更となりました。なお黒根委員と北川委員は、本日欠席でございます。</p> <p>また本日は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所から瀧永様と高野様にオブザーバーとしてお越しいただいておりますので、ご報告いたします。</p> <p>続いて、お手元資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（資料確認）</p> <p>それでは、会議に移らせていただきます。当審議会規則第7条第4項により、本会議の議事進行は分科会長が行うこととなっております。肥塚会長よろしく申し上げます。</p>
肥塚会長	<p>皆さんよろしくお願いいいたします。これから分科会を始めさせていただきます。円滑な会議進行について皆様にご協力をお願いいたします。</p> <p>この分科会はいつものように、原則公開ということになりますが、一部非公開の資料があるということで、後ほど議題説明の際に事務局から説明があるということですので、ご了承お願いいいたします。</p> <p>それでは、本日の委員の出席状況について、事務局から報告してください。</p>
事務局（瀧本）	<p>本日の委員の出席状況は、議員総数13人のうち現在のところ出席は7人、欠席は4人です。川島委員は後ほどお越しの旨、連絡をいただいております。</p> <p>過半数以上の出席をいただいておりますので、当審議会規則第8条第2項により会議は成立いたしております。なお、本日は2名の方が傍聴されていることをご報告いたします。</p>

肥塚会長

どうもありがとうございます。議題の進め方につきましては、事務局から説明を受けましてその内容について順次ご意見ご質問等いただくということで、いつものように進めさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。それでは議事に入ります。

まず、議題1です。「アンケート調査の進捗状況について」事務局から説明をお願いいたします。

事務局（三河）

健康づくり課の三河でございます。よろしくをお願いいたします。それでは、着座でご説明申し上げます。

資料につきましては、まず資料1-1、A4の資料からご説明をさせていただきます。

資料1-1が今回、アンケート調査を実施いたしましたので、その概要の資料でございます。

前回開催の本分科会でご説明をさせていただきましたとおり、本分科会で所管しております「健康いばらき21・食育推進計画」及び「いのち支える自殺対策計画」につきましては、現行の計画期間が令和6年度からで、令和8年度には中間評価を行うこととしております。

今回実施いたしました、市民アンケート調査は、計画の中間評価を行うに当たりましてその基礎データとするため、また、今後の施策の検討に必要な資料を得ることを目的として実施したものです。

調査内容等につきましては、今回は中間評価でございますので、令和4年度に実施した前回のものを基本として実施しております。

調査対象者は、改めてのご説明となりますが、18歳以上の一般市民と、市内の小中学生でございます。

調査の配布及び回答方法は記載のとおりで、18歳以上の一般市民の方からは合計で1,167人の方から回答をいただきまして、回収率は約51.8%と、半数以上の方にご回答いただいております。実施期間については記載のとおりで、昨年10月から11月にかけて実施いたしました。

こちら資料1-1の2枚目と3枚目は一般市民の調査項目の一覧で、4枚目は小中学生の調査項目の一覧でございますが、個別の項目についてのご説明は割愛させていただきます。

続きまして、資料1-2と資料1-3でございます。今回のアンケートの単純集計結果の報告をさせていただきます。

はじめに、資料の一部非公開についてお断りをさせていただきます。各設問におきまして、性別欄について「どちらでもない・無回答」という項目がございます。

「どちらでもない・無回答」の方は母数が少なく、各設問の選択

肢にお答えいただきますと、特定の項目に非常に少数のご回答になる場合があります、ご本人を含めて、結果をご覧になった方から、どの項目に回答があったかが分かってしまう場合があることから、本日、委員の皆様にご覧いただいた資料の2としてお配りした資料以外では、この部分を非公開とさせていただきます。

また、各調査項目につきまして、資料にコメントを記載してあります主な項目を抜粋してご紹介させていただきたく存じますが、時間の都合上、コメントを記載しております項目につきましても、一部省略をさせていただきますのでご了承くださいますようお願いいたします。

それでは、資料1-2の1一般市民の調査項目から、主だったものをご説明いたします。

まず問3「健康への関心」の項目についてでございますが、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」という回答があった方の割合は93.4%となりまして、前回と同程度でございました。

問5「家庭での血圧測定の頻度」については「測らない」と答えた方の割合が63.6%であり、前回よりも測らない人の割合が増加しています。問6～問8は、かかりつけ医・歯科医・薬局についての項目です。それぞれ、前回と比較してかかりつけがある方の割合が増加をしております。

資料2枚目でございます。問10「週に何日くらい30分以上の運動をしているか」については、「していない」と回答した人の割合が36.6%で、前回よりも減少しました。男女で比較いたしますと、男性が3割程度である一方で、女性は4割を超えているという状況でございます。

問13「食育への関心」の項目ですが、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」人の割合は77.5%で、前回よりも少し増加しているという状況でございます。

続いて、3枚目でございます。

問19「減塩に気を付けた食生活の実践」につきましては、「いつも気を付けて実践している」「気を付けて実践している」と答えた方の割合は合計44.0%で、前回よりも減少しております。

問21「睡眠で休養が十分に取れているか」につきましては、「充分とれている」「まあまあとれている」と答えた人の割合は70.9%となりまして、問22「平均睡眠時間」については、6時間以上と答えた方の割合は53.5%という結果でございました。

次に4枚目でございます。

問28「日頃、強い悩みやストレス、不満を感じているか」については、「ある」と答えた人の割合が30.6%で、前回の令和4年度の結果よりも6.5%ほど減少しています。

また、問30「悩み等を聴いてくれる人または場所があるか」については、「相談する人がいない」と「誰にも相談しない」と答え

た人の割合が7.1%で、前回調査から半減とはいきませんが比較的大きく減少しているかなという印象でございます。

続きまして、名称の認知度の調査項目でございます。問31の「ゲートキーパーの認知度」は10.5%で、前回よりも2%ほど増加しています。問32につきましては本市でも連携して取組を行っている「STOP-MIキャンペーンの認知度」ですが、約6.6%という結果でした。

5枚目でございます。

問35～問37は、こちらの設問については今回初めて加えた、がん検診の受診状況に関する質問です。前回分科会でもご説明をさせていただきましたが、がん検診の受診率につきましては、本市で把握することができるのは市町村が実施するがん検診の受診率のみでございます。職域等で受診したがん検診の受診率を把握する仕組みがないため、今回新たにがん検診に関する項目を追加したものでございます。

問35「直近1年間で、市が実施するがん検診や勤務先等、どこかでがん検診を受診した」と答えた人の割合は44.7%という結果でございます。問36で受診月の傾向を見ておりますと、年末年始と年度当初に受診される人は比較的少なく、最も多かったのが10月という結果でした。

問37で「受診した人のうち、どのがん検診を受診したか」を見てまいりますと、男性で最も多かったのは胃がん検診で、女性では、隔年受診になりますが子宮頸がん・乳がん検診は約半数の人が受診をされておりまして、それ以外で受診した人の割合が高かったのは大腸がん検診という結果でございます。

続きまして、資料の6枚目と7枚目、こちらが小中学生の結果でございます。

問1「運動やスポーツが好きか」については、「好き」「やや好き」と答えた人の割合が、小学生、中学生ともに、前回よりもやや増加しているという結果でございます。

問4「朝食を食べる頻度」につきましては、「毎日」または「週に4～5日」と答えた人の割合が、小中学生ともに、前回よりも微増となりました。

続きまして、7枚目でございます。

問10「過去1年に眠れないほど困ったり悲しかったことがあるか」については、「ある」と答えた小学生は前回よりも減少した一方で、「ある」と答えた中学生は前回よりも増加という結果ございました。

問11は、先ほどの問10で「ある」と答えた小学生のうち、「誰にも相談しない」「相談する人がいない」と答えた人の割合は前回よりも増加しておりまして、中学生についても同様に増加しています。

問12「睡眠で休養が十分にとれているか」につきましては、「充

分とれている」「まあまあ取れている」と答えた人の割合は90.5%という結果でございます。

問13の「平均睡眠時間」につきましては、「9時間以上」と答えた小学生の割合は23.2%で、「8時間以上」と答えた中学生の割合は合計20.4%という結果でございます。

以上で簡単でございますが、アンケート調査の主な項目についての単純集計結果のご説明を終わらせていただきますが、調査項目のほとんどが、日常的な生活習慣や意識について問うものでございます。

前回調査については令和4年度に実施していたということもあって、コロナ禍であったということも一因として、前回調査との比較で申し上げますと、社会的な環境要因による違いもあり、それが今回の結果の差にも生じている可能性があったのかなという印象を持っております。

今後アンケート調査結果につきましては、性別や年代ごとに分けて集計をいたしまして、最終報告書として作成いたしますので、次回分科会において資料として提示させていただきたいと考えております。その結果を踏まえまして、現在の取組や今後の取組の参考にするとともに、次年度には計画の中間評価・見直しを行ってまいりたいと考えております。

最後に、議題1につきまして事前にご意見を頂戴しておりますのでご紹介をさせていただきたいと思っております。

本日机前にお配りさせていただいております、当日資料1でございます。

加藤委員からのご意見を抜粋してご紹介させていただきますと、「アンケート調査で「健康に関心がある・どちらかといえば関心がある」と回答した人の割合は93.4%となりますが、「かかりつけ薬局」がある人の割合は45.9%と半数程度で、健康に関心がある層の薬局利活用に課題があるよううかがえます。

また、現在議論されております、令和8年度の診療報酬・調剤報酬改定において、地域支援体制加算に関する地域医療への貢献に係る体制及び実績として「セルフメディケーション関連機器を設置していること」が明記される見込みであり、令和7年末時点で、市内薬局の約7割がこの加算を算定されているとのことです。

今後、令和8年度はセルフメディケーション関連機器を設置する薬局が増加する機運が高まると予想されることから、どのような機器が必要とされているかでありませうとか、何をいつどの薬局で測定することができるのかを周知するなど、市と足並みを揃えた施策を実施することで、地域の健康拠点である薬局の利活用が増え、地域住民の健康づくりの一助となれば幸いであると考えます。」というご意見を頂戴しております。

こちらのご回答といたしまして、気軽に相談することができる

「かかりつけ薬局」は、市民の健康の維持・増進の支援に大きな役割を果たすものと認識しています。

セルフメディケーションの必要性の高まりに伴い、本市におきましても、後ほど議題3でご紹介いたしますが、資料3で記載しておりますとおり、一般社団法人茨木市薬剤師会に協力いただきまして、市内の薬局等に「血压測定スポット」の設置を進めているところでございます。

地域支援体制加算に関します、国の動向の把握に努めつつ、引き続き、このような取組を通じて連携をしまいいりながら、市民の健康づくりと、地域の健康拠点としての「かかりつけ薬局」の推進を図ってまいりたいと考えております。

議題1につきましては以上でございます。

肥塚会長

はいどうもありがとうございます。それではですね、ただいまの説明につきましてご意見、ご質問等をいただいていたと思います。

最初に加藤委員からいただいたことについて回答ありましたが、これについてコメントはございますか。よろしいですか。

そうしましたらアンケートの単純集計ということでございますが、出てまいりましたので、前回等の比較もいくつかしていただいているということで、状況についてざっくりとは理解ができるかなと思っておりますので、皆さんの方からご質問、ご意見いただこうと思っております。いかがでしょうか。

篠永委員

茨木市医師会の篠永です。

詳細な茨木市独自の調査アンケートかと承知しております。経年的なパーセンテージの増減っていうのは、明らかに分かるわけなんですけども、統計同士を安易に比較するとピットホールがある場合もあります。茨木市が課題として取り上げるべきところが他市、あるいは全国的に比較することも有益なことかなとは思っていますので、このアンケート調査の結果を集約する場合には、比較してもいいかなという統計がございましたらそういうところも加味しながらすると、より深みのある問題点の抽出につなげることができるのではないかなという印象を受けました。以上です。

肥塚会長

はい、ありがとうございます。貴重なご意見だというふうに思いますがいかがでしょう。

事務局（三河）

貴重なご意見をありがとうございます。

全国との比較というところもございますので、今後今回の単純集計結果だけではなくて、最終的な報告書ができましたら、次年度となりますが中間評価においても全国の比較を踏まえまして、市としての課題というところを分かるような形でお示しをさせていただきます。

ながら見直しに向けて進めてまいりたいと考えております。  
ありがとうございます。

肥塚会長

全国、近隣とか大阪府とかは、データはあるのですか。

事務局（三河）

近隣でありますとか、大阪府につきましては、現計画を策定されております年度のデータについてはあるというところと、あと最新の状況について府にも確認しつつというところになるかと思うんですが、3年ごとの調査というのなかなかないのではないかなというところはございます。近隣市で申し上げますと、6年ごとの計画というのなかなか少ない状況にありますので可能な範囲で比較しながらと思っております。

肥塚会長

ありがとうございます。そこはもう本当に可能な限りしかできないと理解いたしますので、またよろしく願いいたします。はい、ありがとうございます。

宮本委員

ありがとうございます。委員がご指摘された点は大事だと思います。その点におきまして本日は、オブザーバーでご参加の医薬基盤・健康・栄養研究所が実施されておられます、国民健康栄養調査というものがございます。時期は少しずれるかもしれませんがそれでもそういったものも、比較対象になるかと思っておりますので、もし可能であれば項目を少し擦り合わせてもいいのかというふうに思いました。あとその質問項目につきましてですけれども1つは、飲酒についてでありますけれども、こちらの方に飲酒量ということで、毎日飲むかであるとかそういう頻度が書かれておりますけれども、現在はアルコール飲酒につきましては、できるだけ飲まない方がいいというふうになってきておりますので完全にやめた、あるいはその月に1回程度、いわゆる休肝日のような形になっておりますけれども、今後、可能であればですね、機会があれば飲むというような機会飲酒をやっているけれども、そういうのがなければ飲まないなどの選択肢を加えるかどうか。

それから健康日本21では、健康に影響を与える飲酒者の割合を減らすということを目指しております、その割合が1日、日本酒で言いますと2合を超えるという。まあ2合を越えなければいいということではないんですけれども、そういう目標を立てていますので今回こう、1合以上というところになっておりますのでもし検討される場合でしたら、1合以上という項目も加えられてもいいのかと思いました。

それと、あと喫煙についてですけれども、昨今は通常のタバコに加えて加熱式タバコ、あるいはそのいわゆる、液体のタバコですね。いわゆる普通のタバコとは異なるものも、特に都市部であるとか若い方の中では増えておりますので、そういったものをこの集計

に取り入れるかどうかということについても、今後は検討されてもいいのかと思いました。以上です。

肥塚会長

はい、ありがとうございます。ちょっと私はタバコ吸ったことがないのでどうですか。今後健康日本の動向であるとか、いろんな状況を踏まえて、やはりアンケートもまた次回されるときは必要かというふうに思いますので、それについては参考にしていく必要があるかなというふうに思います。ありがとうございます。

では、他ありますか。

福島委員

資料3の子どもさんに対するアンケートのところなんですけども、朝ご飯を食べているのかとか、それから夕ご飯、晩ご飯ほとんど食べていないという項目があるんですね。よくテレビの中で出ていますように、こども食堂みたいところで、親が貧しいために食事自体ができない子どもさんがおられます。お聞きしたいのは、市の中でこども食堂とかですね、食事に困っている子どもさんはおられるのでしょうか。

肥塚会長

アンケートとは違うのでいきなり答えられるかどうかちょっとあるんですけども、その辺の状況についてもしご存知のことがあれば、教えていただければと思いますがいかがでしょうか。

事務局（三河）

ありがとうございます。お答えといたしましては実際にお困りになられているお子様がいらっしゃるかということにつきまして、この場で明確な答えとしては難しいとは思っているんですが、今回のアンケートについて誰かと一緒に食べることがあるかということで、共食の取り組みの一環として、本市においては、こども食堂に対する市からの支援を実施しているところでございます。そういった取り組みを通じながらこちらの食育推進計画といたしましても、共食の取組を継続してまいりたいと考えています。

肥塚会長

よろしいでしょうか。次行きたいと思いますがいかがでしょうか。他の方でまだご発言ない方でももちろんありましたら。よろしいですか。

そうしましたら、アンケート調査の進捗状況については以上とさせていただきます。それでは、次の議事でございます。議題2「計画中間見直しに向けたスケジュールについて」、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（三河）

続きまして、議題2でございます。資料2をご覧くださいませでしょうか。A4横長の資料でございます。

こちらの資料につきましては、令和8年度に予定をしております

す、計画中間見直しに向けた今後のスケジュールの案を一覧として示しているものでございます。

前回計画の中間見直しを行いました令和2年度と、現計画の策定作業を行いました令和5年度のスケジュールを参考にいたしまして、あくまで現時点で予定している内容でございますので、ご留意をいただければと思います。

表の左側の令和7年度からご覧いただきますと、本日開催しております第2回健康医療推進分科会を開催後、3月23日に全体の総合保健福祉審議会を開催予定としております。

総合保健福祉審議会には、地域福祉・高齢・障害・健康医療の各分科会から、それぞれ一部の委員のかたにご出席をいただくこととしており、該当の皆様へは先日ご通知をさせていただいているところでございます。

令和8年度に入りまして、本分科会は3回程度の開催を予定しており、令和7年度の取組報告や、現計画の中間評価を主な議題とさせていただく予定でございます。なお、他の地域福祉・高齢・障害分野につきましても、3回または4回を予定しているというところでございます。

その後、各分科会におきまして、中間見直しの案を固めてから、12月には全体の第1回総合保健福祉審議会を開催し、年が明けまして、パブリックコメントを実施後の翌年3月に、第2回審議会を開催して、中間見直しをした計画を確定するという予定でございます。

資料2の下段左側には参考といたしまして、前計画の中間見直しの年でありました令和2年度の議題を、掲載しております。

下段右側につきましては、令和8年度における分科会の議題の予定でございます。

令和7年度中の計画進捗・取組の状況や、今回のアンケート調査の結果報告書の完成版をご報告させていただくとともに、順次、計画中間見直しの構成やその案について議題とさせていただきたいと思っております。

繰り返しとなり恐縮でございますが、現時点におけるスケジュールのイメージでございまして、今後の状況によりまして、開催時期や内容に変更がある場合がございますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

なお、本分科会の次回開催通知につきましては、4月以降に改めて、各委員の皆様へ文書でお送りさせていただきますので、よろしくお願いたします。

議題2について、ご説明は以上です。

肥塚会長

はいどうもありがとうございます。いくつかの留保はついておりますが、スケジュールはこういうことで大体進めていきたいということと、あと予定の議題もこんな形でしていきたいと、見通しのよう

なものでありまして、変更はありうるという話でございますが、進め方について何かご質問等ありましたらいただこうかなと思えます。

ご意見があったらいただくんですが、どうでしょうか。進め方、よろしいですか。

そうしましたら来年度は、中間見直し年ということで、この分科会も3回程度、開かれると考えられているということです。ありがとうございます。それでは、次の議題でございます。議題3「令和7年度健康づくりに関わる主な取り組み」について事務局から説明をお願いいたします。

事務局（三河）

議題3でございます。議題3につきましても、A4の縦の資料3と、参考といたしまして、チラシが複数枚ございます。

資料3には、各取組を順に記載をしております、それぞれのタイトルの横に、参考資料ありと記載しているものにつきましては、参考資料としてチラシ等の写しを併せてご覧いただければと思います。それでは、健診関係から順に御説明をさせていただきます。

事務局（飯盛）

1つ目の項目になります。予約機会の確保などを図るため、令和5年度から集団健診の予約方法に、オンライン予約の仕組みを導入しております。登録者のうち、未受診の方にはメールで集団健診の案内を送付し、受診を促しております。

また医療機関が近くにない方でも身近で健診を受けられる環境を整えるため、地区福祉センター等において健診車を活用し、巡回特定健診を年8回、巡回子宮がん・乳がん検診を年8回、巡回胃がん検診を年5回実施しております。

2つ目の項目についてです。定期的な歯科健診を受ける機会が少ない、20歳・30歳に歯科健診の機会を提供し、歯科疾患の予防を図ることを目的として、茨木市歯科医師会のご協力をいただき、令和7年度から従来の対象年齢40歳から74歳に加え、20歳・30歳を新たに歯科健診の対象者に加えて実施しています。

3つ目の項目になります。胃がんの早期発見・早期治療を図るため、令和6年11月から胃内視鏡検診を開始し、個別医療機関での胃内視鏡による胃がん検診を実施しています。対象年齢は50歳以上の市民で、2年度に1回受診できるように設定しております。

事務局（三河）

続きましての資料の2枚目でございます。一番上からアピアランスケア助成事業ということでございまして、国と府のがん対策の計画に基づき、がんと共生の一環として、がん治療に伴う外見上の変化による精神的苦痛を軽減し、社会参加の支援及び療養生活の質向上の一助となるよう、がんと診断され治療を受けた、または現在治療を受けており、医療用ウィッグや乳房補整用具等を必要とする方を対象として、その費用の一部を助成している事業でございま

す。

助成の実績といたしましては、令和6年度の10月から開始した事業でございまして、令和6年度が90件、令和7年度、こちらは12月未までの件数でございますが、115件の実績でございます。

続きまして、その下、茨木市健康フェアの開催ということでございまして、市民の主体的な健康づくり活動を推進するとともに、健康づくりイベント等における協働を通じて、ヘルスリテラシーの機運醸成を図るため、茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」において、三師会と市の共催で「令和7年度茨木市健康フェア」を開催したものでございます。

三師会によります小中学生向けの医師・歯科医師・薬剤師のお仕事体験や、市と協定を締結している3つの大学や2つの企業による健康づくりに関する体験や展示に加えまして、市では、健（検）診の周知啓発に関するブースを出展いたしまして、約850人以上の来場がありました。

事務局（永友）

続きまして、食育推進月間イベントを開催いたしました。11月14、15日でおにクルにおいて、「“食”で創るこころとからだ」をテーマにして行っております。多くの参加団体や、連携企業・大学等を中心として、いろいろな方に協力していただきました。特にかるしお認定企業も10社ほど参画していただき、多くの商品の提供をいただきまして、多くの方にこのかるしおとか減塩とかいう意識が届いているのではないかと考えております。ありがとうございます。また、国立循環器病研究センターからは、かるしおレシピもたくさん提供いただきまして、その配布もかなり進んでいるところであります。受付者数としては約730人で、参加団体数は書いておりであります。

次のページのSTOP-MIキャンペーンの推進として、これも国立循環器病研究センターと連携協定を結んで進んできている内容であります。添付にもあるんですが、チラシを国立循環器病研究センターとか医師会の先生方と協力して作りました。また、広報いばらき8月号においては、田原先生や医師会の協力のもと、心筋梗塞の特集記事も掲載しております。去年から、今年度は作るということが目標でしたので、来年度に向けて周知啓発、チラシの配布等を進めていきたいと考えております。

事務局（三木）

続きまして、血圧測定スポットの設置について説明します。

市民の方が身近な場所で気軽に血圧を測定できる機会を増やし、高血圧を早期に発見することで脳血管疾患等を予防するための取り組みとしまして、茨木市薬剤師会にご協力いただきまして、多くの薬局や公共施設等に血圧測定スポットの設置を進めております。また、現在は血圧測定スポットロゴマークを作成しておりまして、市民へのさらなる周知・啓発に努めてまいります。

肥塚会長

どうもありがとうございます。そうしましたら、この取組みの状況、主な取組みについてご質問、ご意見ございましたらいただこうかなと思います。いかがでしょうか。

宮本委員

国立循環器病研究センターにつきましては、日頃から大変お世話になっております。ありがとうございます。お話しいただきました中で、STOP-MIにつきまして取り組ませていただいておりますけれども、先ほどのアンケートの中でも、まだ知っておられる方が2%少しぐらいということで、ほとんどの方が知られないということはございますので、STOP-MI、医療関係者の人がSTOP-MIというと分かるんですが、一般の方がSTOP-MIって言ってMIって何やろうっていうことなのかなというのちょっと思ったりもしますし、これを逆に、それが皆さん市民の方が広くMIという言葉に馴染んでいただくことができれば、またそれは大きな意味を持つのかなと思いますので、どのようにしてこれを広げていくことができるかということにつきまして、センターといたしましてもまたさらに検討していきたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

かるしおにつきましては、これはセンターが製造販売するものではなくてですね、センターのほうで減塩ということでそういう認証をしているものなんですけれども、そういったものが一般のこういう健康づくりの中で、そういう企業の方も積極的に参加いただける雰囲気づくりとして行っている面もございます。ですから、そういったことを今後も広げていきたいと思いますので、どうぞよろしく願います。

最後に、この血压測定スポットにつきまして、最初に薬剤師会の委員の先生のほうからご質問がありましたけれども、これが市民の方が気軽にこういったものを活用できるというのは非常に素晴らしいかなと思います。血压計を自宅に1台という時代ではあるんですけれども、例えば電池が切れてそのまま電池交換せずに置いてあるとかですね。そういったことも結構あってですね、ちょっと血压のことが気になったときにどこ行ったら測れるとかということは、非常に意味があるかなと思いますし、あとはそういったところに行くことを、行ったところに例えば、先ほどの減塩のものであるとか、STOP-MIキャンペーンのチラシであるとか、そういったもので、そこでまた新たな健康づくりについての関心、あるいは機会を持っていただくということが可能になるのかなと思いますので、これをどういった薬局で、血压あるいはそれ以外の、例えば体重を量るとかですね、今ですと、脂肪量を測定する機械とかいろいろあるかと思いますが、そういったもの、おそらく場所によって置いてあるところ、どういったものがあるかというところがあるかと思いますが、そういったものを見える化、市民の方に見える化し

	<p>ていただいて、この近くだったらここがあるので、これを測りたいので行こうとかですね。行ってみようかとか、そういったことができるような何か、アプリなのか分からないんですけども、そういう工夫をしていただいてもいいのかなというふうに思いました。</p> <p>以上です。</p>
肥塚会長	<p>はい、ありがとうございます。いろんな取組みについての専門的な研究を含めたご説明をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ほかいかがでしょうか。</p>
佐藤委員	<p>血圧測定スポットの設置ということなんですけども、このロゴマークってすごくいいなと思ったんですけども、大体これぐらいの大きさでとか、市民としては、コミュニティセンターとかに血圧計が置いてあると思うんですけども、皆さん知ってる方は測っておられます。知らない方はもちろん素通りなんですけども、そこにこう玄関の入り口にロゴマークが貼ってあると、測ってみようかなという意識に、AEDと同じように出すようなものがあるといいなというのも、ちょっと思いました。</p>
肥塚会長	<p>確かにそうですね。AEDはもう本当にみんなね、あのマークでっというのですぐ分かるようになってますから、そうなったらいいなというのは確かにそうかというふうに思いました。</p> <p>ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。</p>
福島委員	<p>今の佐藤委員のご発言で思ったんですけども、例えば私たち、私が今居住している町内では、こういうのは回覧板によって周知されてきますけれども、それはよく分かるんですけど、実施してどれくらい人が受診したというのが、例えば人口統計から、この年代の人は大体何人ぐらいいるけども、何人ぐらい、何パーセントぐらいの人が受診されたということで、目標管理みたいなことはやられるんですか。</p>
事務局（三木）	<p>測定者数についてはなかなか把握が難しいと思っておりますので、またどのような統計があるか等調べていきたいと思っております。</p>
肥塚会長	<p>この仕方は確かに難しそうですもんね。でも、何か工夫の仕方はあるかもしれないので、このご時世ですから。またそれは研究していただければというふうに思います。</p> <p>ありがとうございます。ほかはいかがですか。</p>
篠永委員	<p>茨木市医師会の篠永です。血圧測定スポットの事業、素晴らしいと思っております。設置するだけでなく、その先にあるものって言うと、一旦測ると、その血圧の測定値が高いのか低いのかという問題</p>

にすぐ直結してしまいます。

測り方の問題もあるとは思いますが、奇しくも去年8月だったのでしょうか、高血圧学会のほうが目指すべき降圧目標ということで、130の80以下、間違っていたのかな、そうですね。130の80以下、しかも全年齢です。

最終的には主治医と患者さんとのご相談でその方、個別の血圧っていうのは決められるべきものと承知しておりますが、私がほんとに申し上げたいのは、このスポットロゴマーク（案）っていうものですけど、変えられるのであれば、目標血圧をこのマンシエットのところに書くとちょっと意味が薄れますので、この影みたいになってるところに、130の80以下で（主治医と相談してね）ぐらいの記載をしてはいかがでしょうか。

やっぱり測った血圧が、ご高齢の方なんか140でもまあそれぐらいかと思ってる人も実は多くて、降圧目標がどこなのかっていう1つの目安っていうのを数字で覚えていただく、それはSTOP-MIにもつながりますし、かかりつけ医と相談ということであれば、かかりつけ医を持とうということにもなりますので、その辺、ひと言、血圧測定したときの調剤薬局のカンバセーションピースとしてそういうのも入れてはいかがかなと思います。

先生、御意見いかがですか。

宮本委員

篠永委員がおっしゃられましたように、血圧を測る、測って終わりではやっぱりよくないといえますか、意味がないのかなと思いますので、測ることによってそれが大丈夫なのか、あるいはちょっとやっぱり何か気をつけないといけないのかというところの判断をしないといけないというところがあって、なかなか、その数字を決めるというのは難しいんですけども、今、お話いただきましたように、日本高血圧学会がそういういわゆる一般の方向けのキャンペーンで目標といえますか、気をつけなければいけない数値として上の血圧を130というものをいろんな、エビデンスであるとかあるいは検討の上で定めていますので、そういったものをこちらにも取り入れるというのはいいのではないかなと思います。

入れ方につきましても、日本高血圧学会のほうで、そういう130という数字が入ったロゴマークを作っておられますので、それをそのまま使うのはちょっと考えないといけないと思うんですけども、そういったものも参考に作られてもいいのかなというふうに思いました。

肥塚会長

はい、ありがとうございます。

何かコメントございますでしょうか。

事務局（永友）

貴重な御意見ありがとうございます。マーク自体がクリエイティブパートナー制度を使って、デザイナーに任せているところがありますので、どこまでこちらの希望が叶うかというところあるんです

肥塚会長	<p>けど、全体の紙のどこかにコメントを書くということはできるかと思しますので、マークの一部とするかどうかっていうのはまた検討させていただきたいと思えます。ありがとうございます。</p>
肥塚会長	<p>はい、ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。よろしいですか。</p> <p>そうしましたら、議題の3についても以上とさせていただきます。それでは、本日の議題は以上でございます。最後に事務局から連絡事項があるということでございますので、お願いいたします。</p>
事務局（瀧本）	<p>議題の資料ではございませんが、「みんなで予防インフルエンザ」の資料を皆さまの机の上に置かせていただいております。</p> <p>健康増進の取り組みではございませんが、インフルエンザが感染拡大していることを受けまして、健康づくり課としては、市役所のデジタルサイネージでこの資料を放映するなどして、感染症対策について周知・啓発に取り組んでおりますので、参考に情報共有させていただきます。</p> <p>資料について、御不明な点や御意見がございましたら、2月27日金曜日までにEメール、FAX等で事務局まで御連絡いただきますよう、お願いいたします。別途送付、または次回の分科会において対応させていただきます。</p> <p>なお本日の会議録につきましては、事務局で案を作成し、皆様にお送りさせていただきますので、ご確認をお願いいたします。</p> <p>以上です。</p>
肥塚会長	<p>はい、ありがとうございます。ただいまのご説明何か、よろしいでしょうか。そうしましたら、そういうことで今後も進めさせていただくということでございます。</p> <p>これをもちまして、令和7年度第2回茨木市健康医療推進分科会を終了させていただきます。皆様長い時間ご協力いただきまして、ありがとうございました。</p> <p>以上です。</p>